

湯檜曾川白樺沢 ケサ丸沢右俣

- 【日 程】 2014年8月25日(月) 前夜発日帰り
【天 候】 朝のうち小雨その後曇り
【メンバー】 CL 齋藤、SL 小澤、小嶋
【行動時間】 マチガ沢林道終点 6:20→白樺沢ケサ丸沢出合 8:20→2段 25m 滝上 10:05
→旧道横断点 12:30→マチガ沢林道終点 16:00

西から前線が移動してきており谷川岳も日中は晴れて午後～夕方には雷雨になる日が続
き、先日は山頂のトマの耳の道標に雷が落ちたそうだ。ここ数日天候が不安定ながら24
日は雨も降らず夜間と翌朝には小雨が降っていたがまとまった雨にはならなかった。

予報通り午前中は雨が上がり薄曇りで湯檜曾川とその支流も特に増水もなくケサ丸沢の
美渓を遡行することができた。

前日にみなかみの道の駅に入り軽く乾杯、のはずが気が付くと日付が変わっていた。前
泊の飲みはやはり楽しい。今回は小嶋さんと好日山荘の小澤さんと私の3人。小嶋さんと
は古賀志の獅子落としに続き沢登りでご一緒していただく。一度ロープを結んでいるので
安心感がある。

翌朝小雨が降っていたものの雲の切れ間が見え天候が持ちそうなので予定通り出発、土
合駅を過ぎてマチガ沢の林道へと入る。この林道はそこそこ荒れておりRV車でないと厳
しい。ノーマル車でも通行はできるが底を擦るのは必須なので覚悟の上で通行を。林道終
点は広い駐車スペースとなっておりそこで支度を整えスタートする。



ケサ丸沢地形図

武能沢までは湯檜曾川沿いに付けられた新道をほとんどアップダウンなしで歩けるが所々ぬかるみと渡渉があるのではじめから沢靴でアプローチする。武能沢を渡り登山道が登りに入ったところで湯檜曾川の魚止めの滝をパスする踏み跡があり時間短縮ができる。しかし今回手前の踏み跡に入ってしまう結局魚止めの滝の高巻きルートに入ってしまったがそれでも特に問題はない。そこからさらに遡ってきれいなナメが現れたところで左から白樺沢ケサ丸沢が合流する。



この先、左側が白樺沢ケサ丸沢出合



ケサ丸沢最初のナメ滝

出合からすぐのミニゴルジュを抜けると谷川らしい開けた溪相とナメ滝が現れ急に明るくなる。気持ちの良い小滝をサクサク登り、きれいな釜で飛び込みや滑り台で遊んでいると崩壊した雪渓が現れ、奥に白樺沢の大滝が見える。過去、同時期に遡行したときは雪渓がわずかにしか残っていなかったが今回はかなりの大きさだ。今回の冬はかなり降雪が多かったことが分かる。ケサ丸沢の遡行適期は7月下旬からとなっているが実際は8月下旬か9月初めから遡行した方がよさそうである。



最近崩壊したと思われる雪渓



きれいな釜で飛び込み、滑り台で遊ぶ

白樺沢が3段30mで出合うと沢は5mの滝で右に曲がりケサ丸沢の2段25mの滝が現れる。滝の右側を直登できるようだが以前試しに取り付いたものの被っておりハーケン

も錆びていて引き返したこともあり今回は無理をせず右岸の草付を登り落ち口へと回り込む。灌木から落ち口へトラバースするところが一枚岩で緊張する。フリクションを効かせ慎重に下降すると滝の落ち口へ下りられるが万スリップすると滝下までフォールしてしまうのでロープで確保した。ここからは大ナメ50mとなり一枚岩を水が流れる景色は素晴らしい。ここは滝の右側をフリクションを効かせて登り高度を稼ぐ。途中振り返ると笠ヶ岳の稜線が見えなかなか良いところである。このあたりがケサ丸沢のハイライトだ。



草付の高巻きから見た2段25m滝



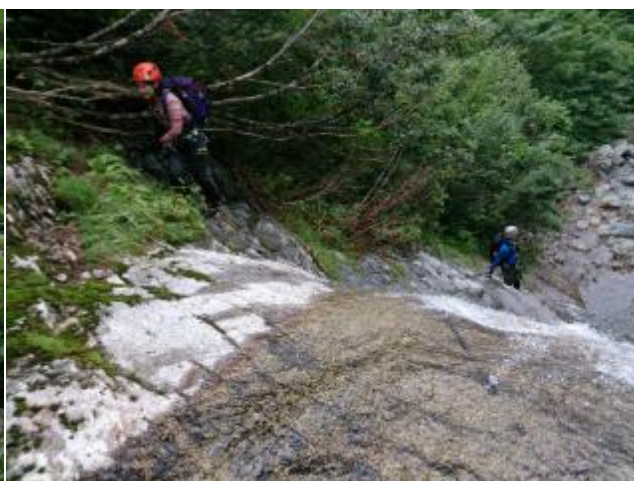
その上の大ナメ50m

大ナメを過ぎると沢幅は狭まり水量が少なくなる。その先の二俣で右俣に入ると8m前後の滝が旧道横断点まで出てくる他、途中3段30mの大ナメ滝がある。基本的にどの滝も巻かずに直登した方が安全だし楽しいが右俣からの滝はヌメるので所々やらしい。

右俣の8mトイ状もヌメっており水流の右側から上部は灌木を腕力頼りに強引に登る。ここで今回の秘密兵器のタワシを試してみた。以前から気にはなっていたが今回やっとその効果を実感することができた。コケでヌメヌメのホールド・スタンスがタワシでゴシゴシしてあげるだけでフリクションが効くようになる。但し今回試したなかでつるつるの岩についているコケは岩自体が滑るのかいくらゴシゴシしても滑っていたので今後どこまで有効なのか引き続き試していきたい。



まだまだある大ナメ3段30m



ホールド・スタンス細かいが楽しい

3段30mの大ナメ滝を過ぎると適度なナメ滝が現れ問題なく登れる。いよいよケサ丸沢の終盤だが中段に残置ハーケンのある8mの滝もヌメっておりここでもタワシ登場。念のためここでも補助ロープを出し後続の小嶋さん、小澤さんを確保する。そしてこの次に出てくる8mの滝を右から登りゴー口の沢をしばらく行くと旧道の横断点に出て遡行終了。注意して見ていれば特に見失うことはないが万が一そのまま沢を詰めても問題なく稜線に出られるので時間の早いパーティーは稜線を目指した方がより充実するだろう。

旧道横断点で登攀装備をはずしここで軽く昼食を取り下山に入る。私は沢タビのままで、小嶋さんと小澤さんは登山靴に履き替える。ここから新道へ続く旧道も刈払いが行われておりありがたい。但し道幅は狭く何度も枝沢を渡渉するので特に登山靴は滑るので注意が必要である。

ケサ丸沢は遡行時間よりもアプローチと下山の方が時間が長いがそれでもまた行きたくなるきれいな沢だと思う。美溪の支流もはずしが無いという法則はけっこう当たっているのかもしれない。

これからも会のたくさんの方といろいろな沢（もちろん岩も雪も氷も）に行きたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

(文・記録 齋藤)

【クレード】 2級下

【基本装備】 足並みがそろっていれば30mの補助ロープで可
8m前後の滝を登るのに10mのお助けロープがあると便利
2段25m滝を登るならハンマー、ハーケン、カム
タワシ（あると安心、なくても可）

【地形図】 茂倉岳



白樺沢出合の3段30m滝